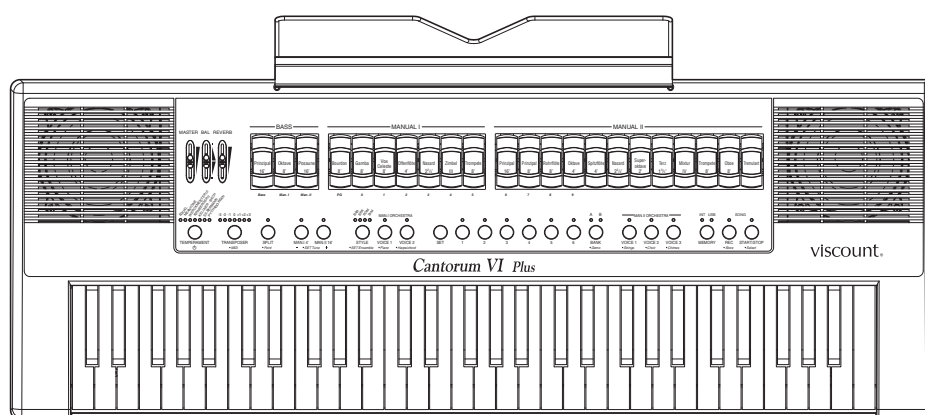




CLASSIC ORGAN

Cantorum VI Plus



取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください（説明項目の中に該当しない内容が含まれている場合があります）。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
   	～しないでくださいという「禁止」を示します。
 	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



禁止

付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

発熱や発火の原因になります。



必ず実行

電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。

確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。

アース接続をはずす場合は、電源プラグをコンセントから取りはずしてから行ってください。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

手入れするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

感電のおそれがあります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品などの液体の入ったものを置かない。また、雨天時の屋外で使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたうえで、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センター（35ページ）に点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない、機器にさわらない。

感電の原因になることがあります。

火に注意



禁止

本体の上ろうそくなど火気のあるものを置かない。

火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・落下した場合、外装が損傷した場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センター（35ページ）に点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



禁止

タコ足配線をしない。

コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



禁止

電源コードなどの被覆剥けを放置したり、ビニールテープなどで応急修理したりしない。

製品の点検、修理は必ずお買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センター（35ページ）に点検をご依頼ください。



必ず実行

電源プラグを抜く時は、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災、故障の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

電源プラグの差し込みが不十分のまま使用すると感電や、プラグにほこりがたまり発熱や発火の原因になります。



必ず実行

長期間使用しない時や落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電、ショート、発火などの原因になります。

設置



禁止

指定製品以外のものをのせない。

スタンドが転倒してけがをすることがあります。



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

スタンドをしっかりと固定した後に楽器を乗せる。

楽器を乗せた状態で本製品の調整を行うと、バランスが悪く落下や転倒のおそれがあります。



必ず実行

スピーカーキャビネットの接続には専用のケーブルを使用する。

市販のスピーカー接続専用ケーブルをお買い求めください。専用ケーブル以外で接続した場合、故障や損傷の原因になるだけでなく、火災の原因になることがあります。



必ず実行

本体を移動する時は、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々がケーブルに引っかかり、転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

スピーカーキャビネットはインピーダンスに合った機器に接続する。

故障や火災のおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグへ容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

取り扱い



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因となります。



必ず実行

演奏を始める前に製品のボリュームを最小にし、演奏をしながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

接続



必ず実行

すべての製品の電源を切った上で、ほかの製品と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、製品のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

スタンド（別売り）



禁止

滑りやすい床面や、平らでない床面で使用しない。

スタンドが転倒して製品が故障したり、お客様がけがをしたりすることがあります。



禁止

指定以外のものをのせない。

スタンドが転倒してけがをすることがあります。



禁止

付属品以外のネジは使用しない。

破損やけがをすることがあります。



禁止

強風の時は屋外で使用しない。

風の影響でスタンドが転倒してけがをすることがあります。



禁止

セッティング時などにおいて、スタンドと製品の間に手を置かない。

手を挟んでけがをすることがあります。



必ず実行

本製品は、水平な床面に設置する。

床が傾いていたり、段差があったりすると転倒のおそれがあります。



必ず実行

ネジは確実に締める。

また、長期間使用する場合、ネジが緩んでいないことを確認してください。緩んだ状態で使用すると製品が落下してけがをすることがあります。



必ず実行

組立は、必ず2人以上で行なう。



必ず実行

移動するときは、必ず2人以上で引きずらず持ち上げて移動する。

ネジが緩んだり、スタンドに歪等が発生し破損につながるおそれがあります。床が傷つくことがあります。

目 次

1. 重要な注意事項	8
1.1 製品の取り扱い / お手入れに関する注意	8
1.2 データの保存に関する注意	8
1.3 データの著作権に関するお願い	8
1.4 取扱説明書に関するお知らせ	9
2. 各部の名称とはたらき	10
2.1 上面パネル	10
2.2 背面パネル	15
2.3 電源のオン / オフ	15
3. アドバンスド・ファンクション	16
3.1 スプリットモード	16
3.2 アンサンブル効果の調整	16
3.3 ピッチの微調整	17
3.4 ボイス音量の調整	17
3.5 トレモロの調整	17
3.6 オーケストラボイスの選択	18
3.7 ローカルオフ	19
4. シーケンサー機能	20
4.1 曲の録音	20
4.2 曲の再生	21
4.3 プリセットソングリスト	21
5. MIDI	23
5.1 MIDI メッセージ送信のオン / オフ	23
5.2 MIDI チャンネルの選択	23
5.3 プログラムチェンジメッセージの送信	24
6. 一般設定	25
6.1 ベロシティカーブの選択	25
6.2 工場出荷時の設定とソングのリセット	25
6.3 ソングファイルの管理	26
6.4 コンビネーションファイルの管理	26
6.5 コンビネーション内のオーケストラボイスとオルガンスタイル	27
6.6 エクスプレッションペダルの較正	27
6.7 スタンバイモードのオン / オフ	28
6.8 オペレーティングシステムのバージョン表示	28
7. 付録	29
7.1 デモソングの再生	29
7.2 デモソングのリスト	29
7.3 MIDI とは	29

8. 製品仕様	31
MIDI インプリメンテーション	32
MIDI インプリメンテーションチャート	34
保証とアフターサービス	35

1. 重要な注意事項

1.1 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。
- 本体を手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ベンチを手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。
- アンプや拡張システムに接続するときは、必ず高品質のシールドケーブルをご使用ください。
- 電源コードはアース付きのコンセントに接続してください。

1.2 データの保存に関する注意

- 本体に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBメモリーに保存してください。
- 保存した USB メモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備の USB メモリーにバックアップとして保存されることをおすすめします。

1.3 データの著作権に関するお願い

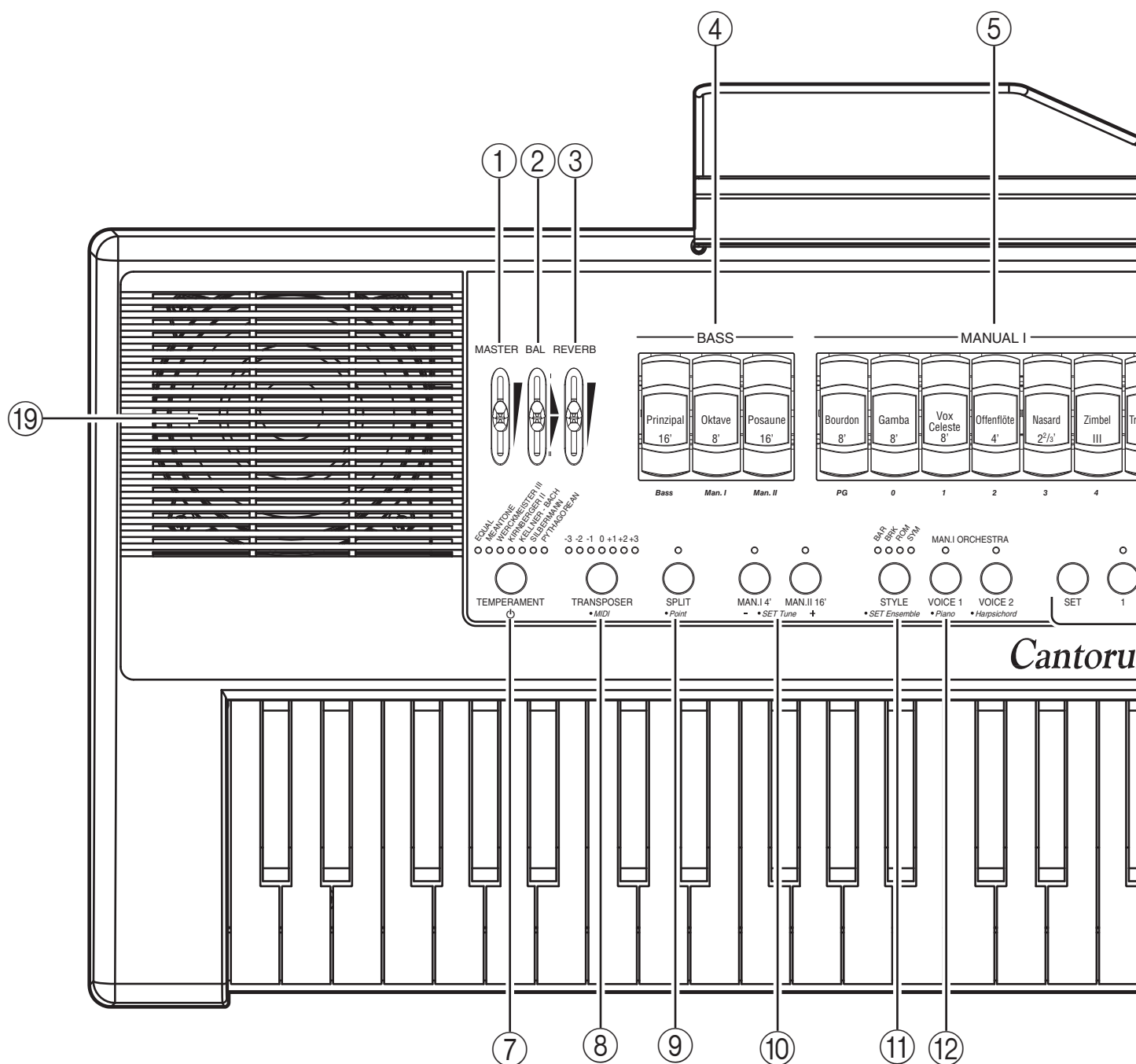
- バイカウント社および第三者から提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

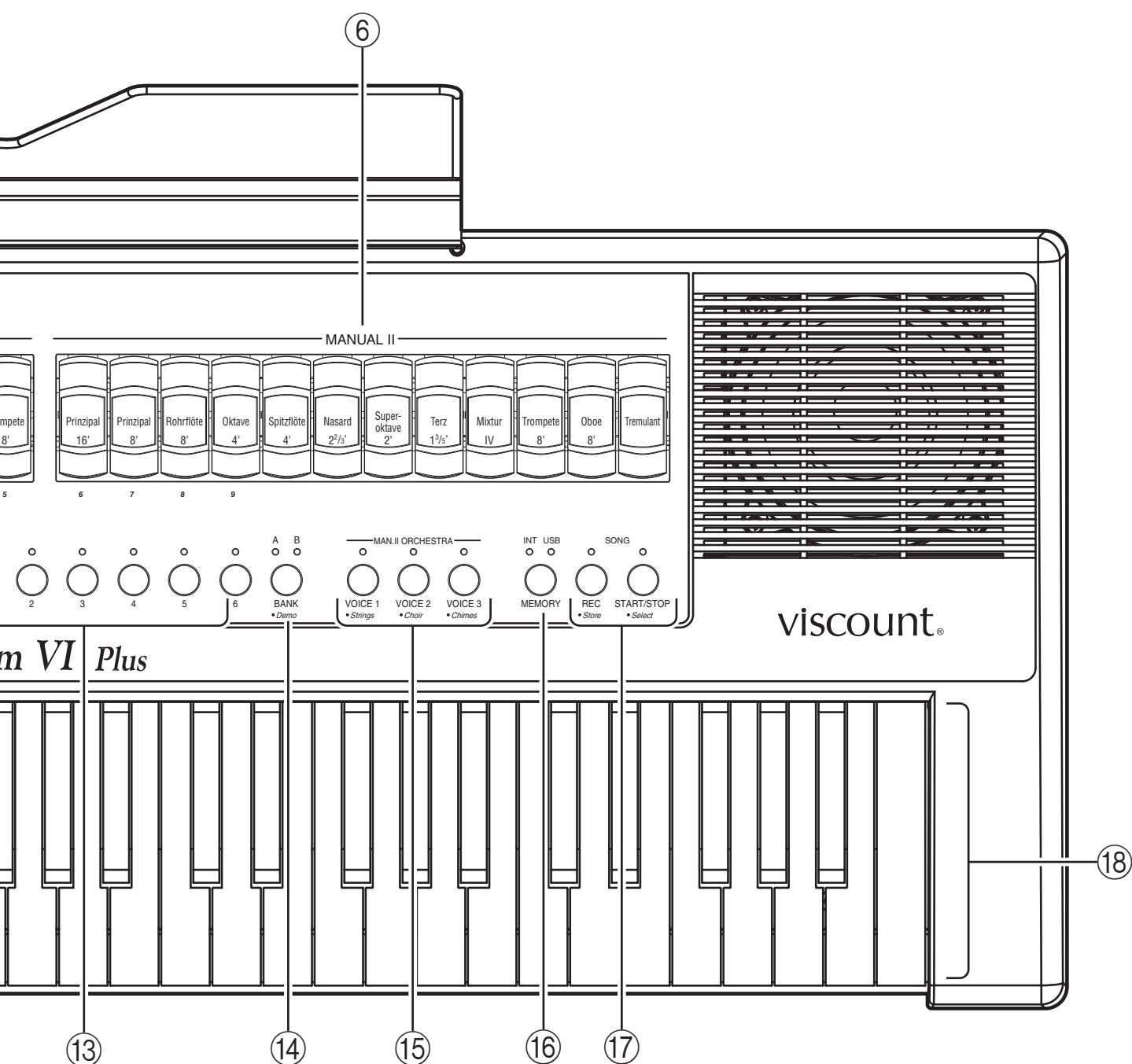
1.4 取扱説明書に関するお知らせ

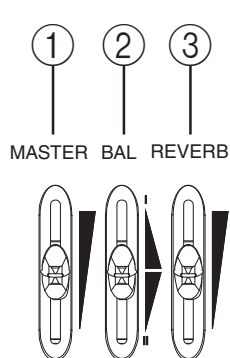
- 本書のいかなる方法による無断複写・転載を禁じます。
- 本製品のすべての機能を使い、演奏をお楽しみいただくため、この取扱説明書をよく読んでご活用ください。
- この取扱説明書は大切に保存してください。
- 仕様、付属品および外観について、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。実際の仕様と異なる場合があります。
- 本書では各部(ボタン、スライダー、端子など)の名称を[]で囲んで表示します。たとえば、[TRANSPOSER]はTRANSPOSER ボタンを指します。
- この取扱説明書では、本書制作時のオペレーティングシステムバージョンにおける操作方法を説明しています。
- MIDI は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

2. 各部の名称とはたらき

2.1 上面パネル







① **[MASTER]スライダー**

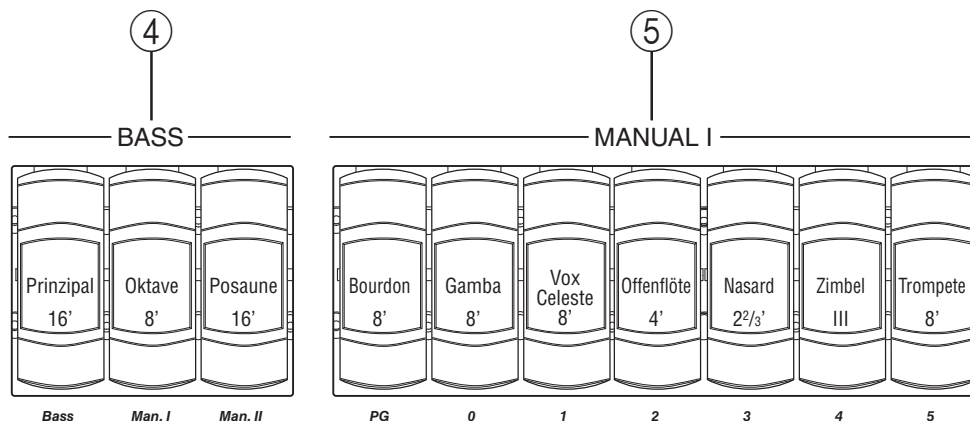
主音量を調整します。

② **[BAL]スライダー**

鍵盤左側(BASS/MANUAL I)と右側(MANUAL II)の音量バランスを調節します。鍵盤は2つの手鍵盤(MANUAL I /MANUAL II)と足鍵盤(BASS)に分けて演奏可能です。

③ **[REVERB]スライダー**

リバーブの量を調整します。



④ **[BASS]セクション**

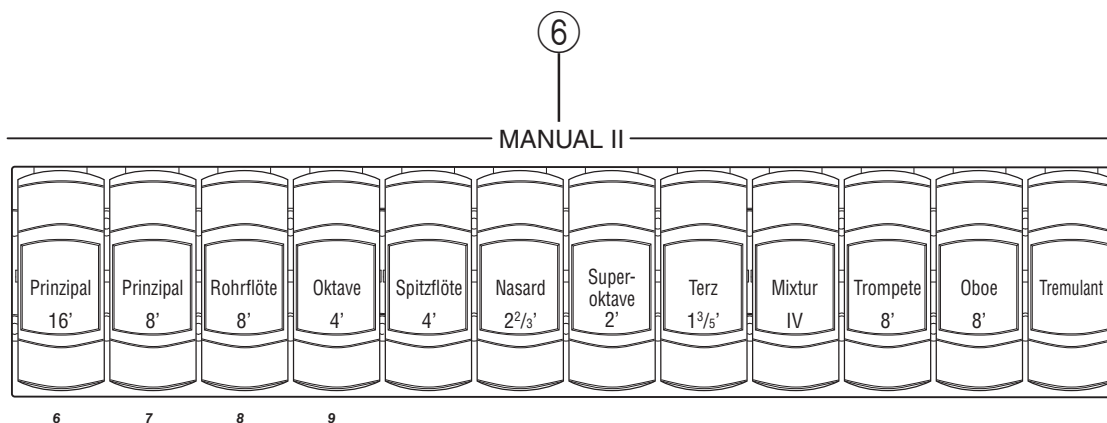
BASS のボイスを選択します。

Prinzipal	16'
Oktave	8'
Posaune	16'

⑤ **[MANUAL I]セクション**

MANUAL I のボイスを選択します。

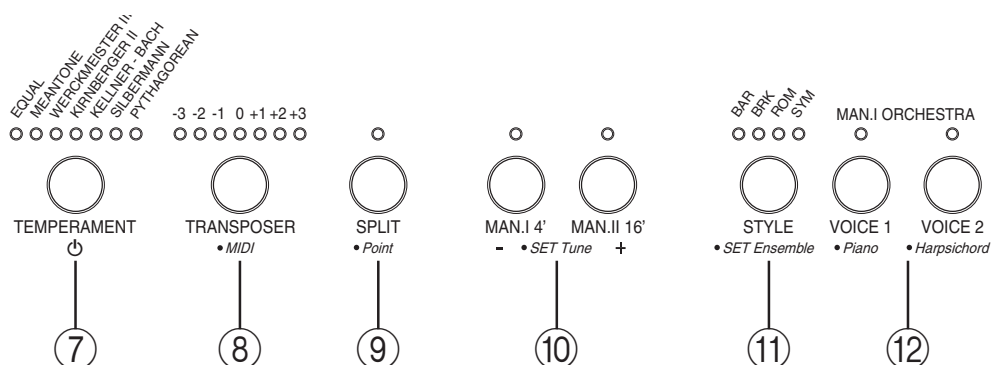
Bourdon	8'	Nasard	2 2/3'
Gamba	8'	Zimbel	III
Vox Celeste	8'	Trompete	8'
Offenflöte	4'		



⑥ **[MANUAL II]セクション**

MANUAL II のボイスを選択します。

Prinzipal	16'	Superoktave	2'
Prinzipal	8'	Terz	1 3/5'
Rohrflöte	8'	Mixtur	IV
Oktave	4'	Trompete	8'
Spitzflöte	4'	Oboe	8'
Nasard	2 2/3'	Tremulant	



⑦ [TEMPERAMENT] ボタン

時代や国など、起源の異なる歴史的なテンパラメント(音律)を選択します。ボタンを繰り返し押して、お好みのテンパラメントを選択してください(選択されたテンパラメントのインジケーターが点灯します)。

調律名:

EQUAL	MEANTONE	WERCKMEISTER III	KIRNBERGER II
KELLNER - BACH	SILBERMANN	PYTHAGOREAN	

⑧ [TRANSPOSER] ボタン

音程を ±3 半音の範囲で移調します(半音単位)。

⑨ [SPLIT] ボタン

鍵盤のスプリットをオン/オフします。この機能を使うと、1 段鍵盤で 2 段鍵盤のように演奏できます。スプリットポイントを含む鍵盤右側で MANUAL II のボイスを、鍵盤左側で MANUAL I /BASS のボイスで演奏が可能です。スプリットについて詳しくは、第 3.1 章をご覧ください。

⑩ オクターブ切り替えボタン

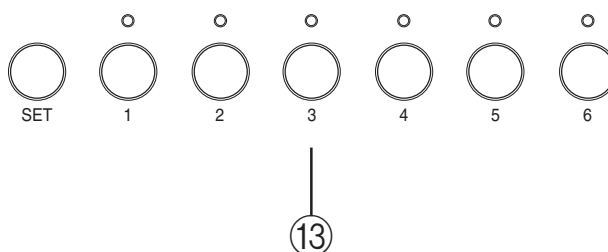
- [MAN. I 4'] : MANUAL I のボイスを 1 オクターブ高くします。
- [MAN. II 16'] : MANUAL II のボイスを 1 オクターブ低くします。

⑪ [STYLE] ボタン

本機には 4 種類のオルガンスタイルがあります。左からバロック(BAR)、北ドイツバロック(BRK)、ロマンティック(ROM)、シンフォニック(SYM)です。演奏する楽曲に合ったスタイルを選択できます。

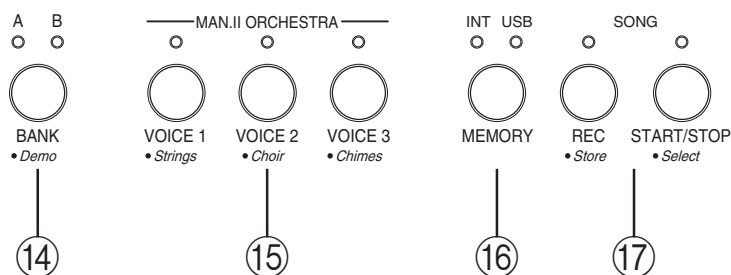
⑫ [MAN. I ORCHESTRA] ボタン

MANUAL I のオーケストラボイスをオン/オフします。2 つのボタンに異なるオーケストラボイスを割り当てることができます。オーケストラボイスの割り当てについて詳しくは、第 3.6 章をご覧ください。



⑬ ジェネラルコンビネーションボタン

- [SET]: 選択したコンビネーションを保存します。コンビネーションを保存するには、[SET] ボタンを押しながら、保存したいコンビネーションのボタンを押します。
- [1]~[6]: 保存したコンビネーションを呼び出します。現在選択されている(インジケーターが点灯している)コンビネーションのボタンを押すと、コンビネーションを選択する前にマニュアルモードで設定した内容を復元します(HR 機能)。現在選択されているコンビネーションのボタンを数秒間押し続けると、コンビネーションをオフにします(キャンセル機能)。



⑭ [BANK] ボタン

メモリーバンク A/B を切り替えます。

⑮ [MAN. II ORCHESTRA] ボタン

MANUAL II のオーケストラボイスをオン/オフします。3つのボタンに異なるオーケストラボイスを割り当てることができます。14のオーケストラボイスを楽しめます。ストリングスやハープ、チェレスタ、ハープシコード、ピアノ、クワイア、チャイム等の音を重ねられます。オーケストラボイスの割り当てについて詳しくは、第3.6章をご覧ください。

⑯ [MEMORY] ボタン

曲やジェネラルコンビネーションを読み込んだり、保存したりするメモリーを選択します(第6.3章および第6.4章参照)。内蔵メモリーが選択されている場合は[INT]インジケーターが、背面の[USB]端子に接続されたUSBメモリーが選択されている場合は[USB]インジケーターが点灯します。

メモ：

USBメモリーを接続した状態で[MEMORY]ボタンを押しても[USB]インジケーターが点灯しない場合は、本機がUSBメモリーを認識していません。USBメモリーが正しく接続されているか、USBメモリーが破損していないか、USBメモリーがFATまたはFAT32でフォーマットされているか確認してください。

⑰ [SONG] ボタン

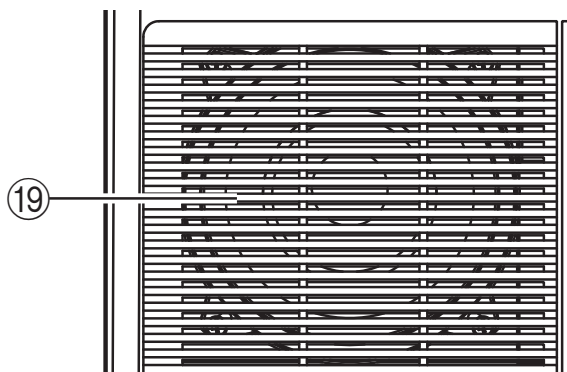
録音 / 再生機能を使えば演奏の保存が可能。客観的に確認することで効果的な練習ができます。

- ・ [REC] : 曲の録音を開始します。
- ・ [START/STOP] : 曲の再生を開始します。

詳しくは、第4章をご覧ください。

⑱ トラッカータッチ鍵盤

本物のパイプオルガンのトラッカータッチをシミュレートした鍵盤ですので、より表現豊かな演奏が楽しめます。

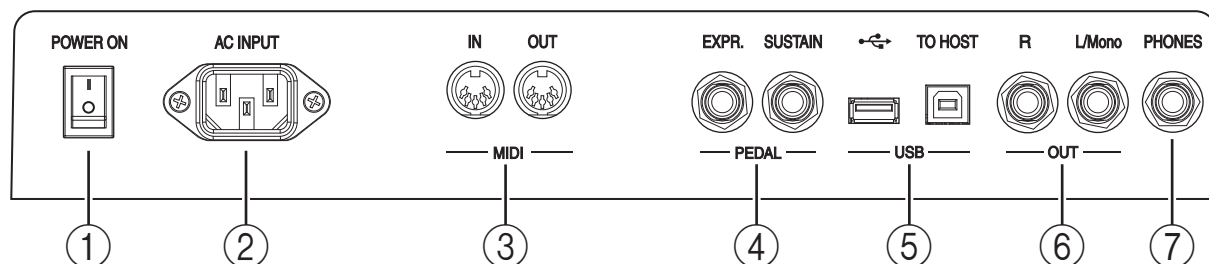


⑲ スピーカー

コンパクトながら美しく輝かしい響き。

演奏会、合唱団の練習、礼拝等に余裕をもって対応できる音量と、バイカントオルガンの人気モデルであるChorumシリーズと同等の高音質な音源を備えた一台です。

2.2 背面パネル



① [POWER ON]スイッチ

本機の電源をオン / オフします。

② [AC INPUT]端子

付属の電源コードを接続します。

③ [MIDI]端子

- ・ [IN] : 外部 MIDI 機器から送信されたデータを受信する MIDI 入力端子です。シーケンサーなどの MIDI 出力端子と接続します。
- ・ [OUT] : 本機が生成した MIDI データを送信する MIDI 出力端子です。エクスパンダーなどの MIDI 入力端子と接続します。

④ [PEDAL]端子

- ・ [EXPR.] : 連続的に音量を調節するためのエクスプレッションペダルを接続します。
- ・ [SUSTAIN] : オーケストラボイスのサステイン効果を調節するためのサステインペダルを接続します。オン / オフ式スイッチペダルを使用してください。

⑤ [USB]端子

- ・ [] : USB メモリーを接続します。
- ・ [TO HOST] : コンピューターを接続して、MIDI データの受信 / 送信に使用します。

⑥ [OUT]端子

本機のオーディオ信号を出力するライン出力端子です。外部オーディオ機器(アンプ内蔵スピーカー、ミキサー、アンプなど)に接続します。音源がモノラルの場合は [L/Mono] 端子のみを使用します。

⑦ [PHONES]端子

ヘッドフォンを接続します。接続すると本機の内蔵スピーカーからは音が出なくなります。

2.3 電源のオン / オフ

本機には「スタンバイ」と呼ばれる省電力モードが装備されています。このモードは省エネルギーに役立ちます。

リアパネルの [POWER ON] スイッチが「」(上側)に設定されていると、スタンバイモードになります。電源をオンにするには、[TEMPERAMENT] ボタンを押して、コンビネーションインジケーターが順番に点灯するのを待ちます。本機は前回電源をオフにしたときの設定で起動します。

また、無操作の状態が30分間続くと、本機は自動的にスタンバイモードに切り替わります。自動スタンバイモードは無効にすることが可能です(第6.7章参照)。電源をオフにするには、[TEMPERAMENT] ボタンのインジケーターのみが点灯するまで [TEMPERAMENT] ボタンを押し続けるか、[POWER ON] スイッチを押します。

3. アドバンスト・ファンクション

3.1 スプリットモード

本機の鍵盤をそのまま 1 段鍵盤として、または 2 段鍵盤のように左右別々の音色で演奏することができます。2 段鍵盤のように使用し各ストップもそれに対応させるには、[SPLIT] ボタンでスプリットモードをオンにします。スプリットモードをオフにすると、MANUAL I と MANUAL II のボイスを鍵盤全体で演奏できます。スプリットモードをオンにすると、MANUAL I のボイスがスプリットポイントの左側で、MANUAL II のボイスは右側(スプリットキーを含む)で演奏できます。

BASS は単音のみ常に演奏でき、複数のキーを押さえた場合、低い音が優先されます。スプリットポイントは、初期設定では C4 (C4 は右側で演奏) に設定されています。

以下の手順にしたがって設定します。

1. [SPLIT] ボタンを長押しします。
2. [SPLIT] ボタンのインジケーターが点滅を始めたら、そのボタンを押したまま、スプリットポイントとして設定するキーを押します。
そのキーが新しいスプリットポイントとなります。

メモ：

- ・ スプリットポイントを 32 番目のキー (G4) より高く設定した場合、BASS のボイスを G4 から上のキーで演奏することはできません。
- ・ 移調設定が 0 以外の場合、スプリットポイントの変更はできません。
- ・ スプリットポイントは C2 より下には設定できません。

3.2 アンサンブル効果の調整

本機は、パイプの経年変化や気温の変動で生じた調律の狂いによる、パイプ間の微妙で自然なピッチの差を再現します。これは「アンサンブル効果」と呼ばれ、効果の程度を調整することができます。

以下の手順にしたがって設定します。

1. [SET] ボタンを押しながら [STYLE] ボタンを押します。
[STYLE] ボタンのインジケーターが 3 回点滅して調整ができることを知らせます。
2. [STYLE] ボタンを押して 4 段階のアンサンブル効果から選択します。
[STYLE] ボタンの 4 つのインジケーターで効果の程度が表示されます。
3. [SET] ボタンを離して設定を終了し保存します。

3.3 ピッチの微調整

ピッチを ± 1 半音 (415.3 Hz ~ 466.2 Hz) の範囲で微調整できます。

以下の手順にしたがって設定します。

1. [SET] ボタンを長押しします。
2. [SET] ボタンを押したまま、[MAN. I 4'] ボタンを押すとピッチが下がり、[MAN. II 16'] ボタンを押すと上がります。
3. [SET] ボタンを離して設定を終了し保存します。

標準ピッチ 440 Hz (A4) にリセットするには、[SET] ボタンを押しながら [MAN. I 4'] ボタンと [MAN. II 16'] ボタンを同時に押します。

3.4 ボイス音量の調整

オルガンスタイルごとに、オルガンボイス、オーケストラボイスのそれぞれの音量を、個別に調整することができます。

以下の手順にしたがって設定します。

1. [SET] ボタンを押しながら [MEMORY] ボタンを押します。
調整ができる状態になると、各ストップのインジケーターが 2 回点滅した後 [MEMORY] ボタンのインジケーターが点滅し始めます。
2. 音量を調整したいボイスをオンにします。
[TRANSPOSER] ボタンの 7 個のインジケーターでボイスの音量レベルが表示されます。音量レベルは左から順に - 6dB、- 4dB、- 2dB、0dB、+2dB、+4dB、+6dB の 7 段階です。ボイスをオンにすると、そのボイスのインジケーターが点滅し始めます。

メモ：

他のボイスもオンにすれば全体的な効果を聴くことができます。その場合は、音量調整の対象となっているボイスのストップが点滅していることにご留意ください。

3. 鍵盤で演奏しながら [TRANSPOSER] ボタンを押すたびに、この 7 段階のレベルが次々と変わります。
4. [MEMORY] ボタンを押して設定を終了し保存します。

3.5 トレモロの調整

[TREMULANT] タブを使って、MANUAL II のボイスのトレモロ効果をオン／オフできます。

トレモロ効果の深さと速さはオルガンスタイルごとに調整できます。

以下の手順にしたがって設定します。

1. [SET] ボタンを押しながら [MEMORY] ボタンを押します。
調整ができる状態になると、各ストップのインジケーターが 2 回点滅した後 [MEMORY] ボタンのインジケーターが点滅し始めます。
2. MANUAL II でトレモロの調整対象となる 1 つまたは複数のボイスをオンにします。
3. トレモロをオンにします。
トレモロの速さは [TEMPERAMENT] ボタンの 7 つのインジケーターで、深さは [TRANSPOSER] ボタンのインジケーターで表示されます。
4. 鍵盤で演奏しながら [TEMPERAMENT] ボタンを押すとトレモロの速さが、また [TRANSPOSER] ボタンを押すとトレモロの深さが変わります。
5. [MEMORY] ボタンを押して設定を終了し保存します。

3.6 オーケストラボイスの選択

本機には14種類のオーケストラボイスがあり、5つの[ORCHESTRA]ボタン(MANUAL I は2つ、MANUAL II は3つ)で呼び出すことができます。次のオーケストラボイスが演奏できます。

- | | | |
|-----------|-------------------|----------|
| - ピアノ | - スtringス | - オーボエ |
| - ハープシコード | - スローアタックのStringス | - クラリネット |
| - チェレスタ | - 男声合唱 | - フルート |
| - チャイム | - 混声合唱 | - パンフルート |
| - ハープ | - トランペット | |

各[ORCHESTRA]ボタンでこれらのボイスを呼び出せます。

以下の手順にしたがって設定します。

1. [SET] ボタンを押しながら[ORCHESTRA] ボタンを繰り返し押して、演奏したいオーケストラボイスを選択します。
2. ボタンを押すたびに、上記のオーケストラボイスが切り替わります。ボイスが変更されると、該当するインジケーターが点滅します。
3. [SET] ボタンを離して設定を終了し保存します。

メモ：

初期設定のボイスを素早く選択するには、[ORCHESTRA] ボタンを数秒長押ししてください。ただし、この方法でボイスを選択した場合は、本機の電源をオフにすると設定が保存されません。

3.7 ローカルオフ

ローカルオフモードを有効にすると、本機の内部音源からは音が出なくなります。

このモードはセクション(BASS、MANUAL I、MANUAL II)ごと、または個々のボイスごとに設定できます。

本機の[MIDI IN]端子と[MIDI OUT]端子の両方、または[USB TO HOST]端子を、データをそのまま送信する外部MIDI機器(「スルー」機能をオンにしたシーケンサーなど)に接続している場合、本機と外部MIDI機器から同時に音が出てしまわないようにするためにも、このモードを利用できます。

以下の手順にしたがって、セクションのローカルオフモードを設定します。

1. [TRANSPOSER] ボタンを長押しして、パネル上のすべてのインジケーターを 2 回点滅させます。
その後、[TRANSPOSER] ボタン上のインジケーターが続けて点滅します。
2. [BASS] セクションの各ストップの下にセクション名のラベル表示があるので、ローカルオフを設定したいセクションをこれらのストップのタブで選択します。設定したいセクションのストップの上部を、ボイスをオフにする要領で上向きに長押しします。
3. MANUAL I セクションの2つ目と3つ目のストップの下の数字ラベルを参照すると、ローカルオフの状態がわかります。2つ目のストップ(数字ラベルが「0」)がオンの場合、ローカルオフモードは無効です。一方、3つ目のストップ(数字ラベルが「1」)がオンの場合、ローカルオフモードは有効になっています。この2つのストップのいずれかを押し、ローカルオフモードの有効／無効を切り替えます。MANUAL I セクションの1つ目のストップがしばらく点滅して、選択したローカルオフモードが設定されます。
4. [TRANSPOSER] ボタンを押して設定を終了し保存します。

以下の手順にしたがって、個々のストップのローカルオフを設定します。

1. [SET] ボタンを押しながら [TRANSPOSER] ボタンを押します。
パネル上のすべてのインジケーターが 2 回点滅した後、[TRANSPOSER] ボタンが点滅し続け、ストップがオンまたはオフになって各ストップのローカルオフの状態を次のように表示します。
 - ・ **ストップがオン**: ローカルオフモードは無効
 - ・ **ストップがオフ**: ローカルオフモードは有効
2. ストップをオフまたはオンにしてローカルオフモードを好みの設定にします。
3. [TRANSPOSER] ボタンを押して設定を終了し保存します。

メモ：

セクションのローカルオフモードを有効にすると、該当するボイスは[MIDI IN]端子から受信したノートを演奏します。

4. シーケンサー機能

本機は演奏を録音して再生できるシーケンサーを内蔵しています。シーケンサーを使って、鍵盤で演奏したノートやパネル操作、[EXPR.]/[SUSTAIN]端子に接続したペダル操作を記録することができます。[MIDI IN]端子または[USB TO HOST]端子で受信した MIDI メッセージも記録されます(第 7.3 章参照)。

シーケンサーを使うと、メモリーに最大61曲を録音/保存することができます。保存した曲は、鍵盤のキーを使って選択することができます。

本機の内蔵メモリーまたは背面パネルの[]端子に接続された USB メモリーの両方に曲を保存して再生することができます。使用するメモリーを選択するには、[MEMORY]ボタンを使います(第 2.1 章⑩参照)。

USB メモリーに保存された曲は MIDI ファイル(.mid)として保存され、保存時に押した鍵盤のキーに応じた番号が付いています(第 4.1 章参照)。例えば、C2 のキーに関連付けられた曲は「1.mid」、F3 のキーに関連付けられた曲は「18.mid」と命名されます、曲は USB メモリー内の「organ/songs」フォルダーに保存されます。

4.1 曲の録音

以下の手順にしたがって、演奏を録音します。

1. [REC] ボタンを押します。[REC] インジケーターが点滅し、録音可能な状態になります。
2. 録音に使用する音色、コントローラーを設定します。
3. [START/STOP] ボタンを押すか、演奏を開始します。[REC] インジケーターの点滅が点灯に変わり、[START/STOP] インジケーターが点滅します。録音中にパネル操作やペダル操作を行なうと、それらはすべて演奏として記録されます。
4. [START/STOP] ボタンを押して、録音を停止します。
5. 再度 [START/STOP] ボタンを押すと、今録音した演奏を聴くことができます。演奏は一時的に保存されますが、本機の電源をオフにしたり、新しい演奏を上書きしたりすると消去されます。演奏を残しておきたい場合は、内蔵メモリーまたは USB メモリーに保存する必要があります。
6. 演奏を保存するメモリーを選択し、演奏を保存します。
 - ・ **内蔵メモリーに保存する場合**：[MEMORY] ボタンを押して [INT] インジケーターを点灯させます。その後、[REC] ボタンをインジケーターが2回点滅するまで押し続け、希望する番号の鍵盤のキーを押します。演奏データは任意の鍵盤のキー(C2 ~ C7)のいずれかに割り当てられて保存されます。
 - ・ **USB メモリーに保存する場合**：[MEMORY] ボタンを押して [USB] インジケーターを点灯させます。その後、[REC] ボタンをインジケーターが2回点滅するまで押し続け、希望する番号の鍵盤のキーを押します。演奏データは任意の鍵盤のキー(C2 ~ C7)のいずれかに割り当てられて保存されます。演奏データは MIDI ファイルとして保存され、保存時に押した鍵盤のキーに応じた番号がファイル名になります。

メモ：

演奏を保存する際には、以下の点にご注意ください。

- ・ **内蔵メモリーに保存する場合**：既に演奏データが割り当てられている鍵盤のキーに新しい演奏データを割り当てると、前の演奏データは上書きされ、元に戻すことはできません。
- ・ **USB メモリーに保存する場合**：既に保存されているファイルと同じ番号の鍵盤のキーを押して保存すると、前の演奏は上書きされ、元に戻すことはできません。

4.2 曲の再生

以下の手順にしたがって、録音された演奏を再生します。

1. [START/STOP] ボタンをインジケーターが2回点滅するまで押し続け、再生したい曲が関連付けられた鍵盤のキーを押します。録音された演奏が再生されます。
2. 再度[START/STOP] ボタンを押すと、再生が停止します。
3. 再生中に音色を切り替えることも可能です。また上記の手順 1 を実行すると、すぐに他の曲を選んで再生することができます。

4.3 プリセットソングリスト

本機の内蔵メモリーには、61曲のプリセットソングが入っています。これらのプリセットソングはご自身の演奏を上書きした場合でも、復元が可能です(第 6.2 章参照)。

本機購入時のプリセットソングは以下のとおりです。

キー	曲名	曲調	イントロ拍数	小節数	テンポ
C2	ADESTE FIDELES	ト長調	4	6	quarter=96
C#2	ALLELUIA DULCE CARMEN (TANTUM ERGO)	ト長調	4	4	quarter=92
D2	AURELIA	二長調	8	4	quarter=96
Eb2	BLESSED ASSURANCE	ハ長調	4	3	dotted quarter=80
E2	CARLISLE SM	二長調	4	5	quarter=104
F2	CASWALL	ヘ長調	4	3	quarter=88
F#2	CROSS OF JESUS	ヘ長調	4	6	quarter=88
G2	DIADEMATA DSM	二長調	4	5	quarter=88
G#2	DIX	ト長調	5	4	quarter=88
A2	DONCASTER SM	ハ長調	4	4	quarter=88
Bb2	DUKE STREET LM	ハ長調	4	5	quarter=88
B2	EASTER HYMN	ハ長調	4	3	quarter=104
C3	ELLACOMBE	イ長調	4	3	quarter=88
C#3	EVENTIDE	変ホ長調	8	5	quarter=66
D3	FRANCONIA SM	二長調	4	5	quarter=88
Eb3	GLORIA	ヘ長調	7	4	quarter=104
E3	GROSSER GOTT	ヘ長調	8	3	quarter=104
F3	HANOVER	ト長調	8	6	quarter=96
F#3	HEATHLANDS	ハ長調	4	3	quarter=88
G3	HORSLEY CM	二長調	5	4	quarter=88
G#3	HYFRYDOL	ヘ長調	8	2	quarter=104
A3	ICH GLAUB AN GOTT	ヘ長調	4	3	quarter=100
Bb3	JACQUES BERTHIER	ト長調	4	3	quarter=72
B3	LASST UNS ERFREUEN	二長調	4	6	half=96
C4	LEONI D	ホ短調	8	5	quarter=88
C#4	LIVING GOOD	ヘ長調	4	4	quarter=80
D4	LLANFAIR	ヘ長調	4	8	quarter=88
Eb4	LOBE DEN HERREN	ヘ長調	6	3	quarter=104
E4	LOURDES HYMN	ト長調	4	7	quarter=88
F4	MACCABAEUS	二長調	8	3	quarter=96
F#4	MARTYRDOM CM	ヘ長調	8	4	quarter=96
G4	MARYTON LM	二長調	8	4	quarter=104
G#4	MENDELSSOHN	ヘ長調	4	3	quarter=96
A4	NICAEA	二長調	8	4	quarter=88
Bb4	NUN DANKET	ヘ長調	8	3	quarter=92
B4	OLD HUNDREDTH LM	ト長調	3	5	quarter=120
C5	PETRA (REDHEAD NO. 76)	二長調	4	5	quarter=96
C#5	QUAM DILECTA	ヘ長調	4	4	quarter=84
D5	SALZBURG (HAYDN) CM	二長調	8	5	quarter=104
Eb5	SAVANNAH	二長調	4	5	quarter=88
E5	SONG 67 CM	二長調	4	5	quarter=88
F5	ST COLUMBA	二長調	8	5	quarter=104

キー	曲名	曲調	イントロ拍数	小節数	テンポ
F#5	ST FLAVIAN CM	へ長調	4	4	quarter=88
G5	ST THOMAS SM	へ長調	4	5	quarter=88
G#5	ST ANNE CM	ハ長調	4	6	quarter=88
A5	ST CATHERINE	ト長調	8	4	quarter=104
Bb5	ST THEODULPH	変ロ長調	4	5	quarter=76
B5	STILLE NACHT	変ロ長調	4	3	dotted quarter=34
C6	STUTTGART	へ長調	4	5	quarter=88
C#6	SWEET SACRAMENT LM	ニ長調	8	4	quarter=100
D6	TRURO LM	ハ長調	4	5	quarter=88
Eb6	VENI EMMANUEL	ホ短調	3	4	quarter=96
E6	WAREHAM LM	イ長調	8	5	quarter=104
F6	WINCHESTER OLD	へ長調	4	7	quarter=92
F#6	WURTEMBERG	ニ長調	4	7	quarter=100
WEDDING TIME					
G6	WEDDING MARCH - WAGNER	変ロ長調			
G#6	AVE MARIA - GOUNOD	ハ長調			
A6	AVE MARIA - SCHUBERT	変ロ長調			
Bb6	JESUS BLEIBET - BACH	ト長調			
B6	PANIS ANGELICUS - FRANCK	ト長調			
C7	WEDDING MARCH - MENDELSSOHN	ハ長調			

5. MIDI

本機は以下の MIDI 設定ができます。

- 各セクション(MANUAL I、MANUAL II、BASS)ごとにすべての MIDI メッセージの送信をオン／オフ
- 各セクション(MANUAL I、MANUAL II、BASS)ごとに受信／送信用の MIDI チャンネルを割り当て
- プログラムチェンジメッセージの各コンビネーションへの保存と送信

MIDI プロトコルと、本機が送受信するすべてのメッセージの詳細については、第 7.3 章と「MIDI インプリメンテーション」をご参照ください。

5.1 MIDI メッセージ送信のオン／オフ

工場出荷時の設定では、3つのセクションに割り当てられた3系統のMIDIチャンネルでMIDIメッセージを送信できるようになっています。

必要に応じて1つまたは複数のセクションの送信をオフにすることができます。

以下の手順にしたがって設定します。

1. [TRANSPOSER] ボタンを長押しして、パネル上のすべてのインジケーターを 2 回点滅させます。
その後、[TRANSPOSER] ボタン上のインジケーターが続けて点滅します。

メモ：

[BASS] セクションの3つのストップは、そのラベルからわかるように、3つのセクションでのMIDIデータの送信状態を次のように表示します。

- **ストップがオン**: 送信は有効
- **ストップがオフ**: 送信は無効

2. 対象のセクションのストップ上部または下部を押して、MIDI 送信の状態を変更します。
3. [TRANSPOSER] ボタンを押して設定を終了し保存します。

5.2 MIDI チャンネルの選択

工場出荷時の設定では、MIDI 送受信チャンネルは以下のように設定されています。

- **BASS セクション**: MIDI チャンネル 4
- **MANUAL I セクション**: MIDI チャンネル 1
- **MANUAL II セクション**: MIDI チャンネル 2

以下の手順にしたがって、セクションに割り当てられたチャンネル番号を変更します。

1. [TRANSPOSER] ボタンを長押しして、パネル上のすべてのインジケーターを 2 回点滅させます。
その後、[TRANSPOSER] ボタン上のインジケーターが続けて点滅します。
2. BASS セクションの 3 つのストップの下にはセクション名(Bass、Man. I、Man. II)がラベル表示されています。
この3つのストップの中から、変更したいMIDIチャンネルが割り当てられているセクションに対応するストップを数秒押したままにすると、MANUAL I のストップの点滅で、現在設定されているチャンネル番号が表示されます。
ラベルからわかるように、これらのストップは数字キーとしても使用でき、現在選択されているチャンネル番号のストップが 1 回点滅します。たとえば左から2つ目(ラベルは「0」)と4つ目(ラベルは「2」)のストップが点滅すれば、MIDI チャンネルは2に設定されているということです。数字は必ず、上記の「0」と「2」の例のように2桁で表示されます。
3. チャンネルの 2 桁目を入力すると、MANUAL I セクションの一番左のストップが数秒点滅して、データが正しく入力されたことを表示します。

4. [TRANSPOSER] ボタンを押して設定を終了し保存します。

メモ：

- MIDI チャンネル番号は 1 ～ 16 の範囲で設定できます。
- MIDI チャンネル設定は送受信両方に適用されます。

5.3 プログラムチェンジメッセージの送信

12 個のジェネラルコンビネーション(6 個×2 種、A/B 切り替え)のそれぞれにプログラムチェンジ番号を割り当て、コンビネーションを呼び出すたびに該当する MIDI メッセージを送信できます。

以下の手順にしたがって、本機の 1 セクションまたは複数セクションの MIDI チャンネルで送信するプログラムチェンジを保存します。

1. [TRANSPOSER] ボタンを長押しして、パネル上のすべてのインジケーターを 2 回点滅させます。
その後、[TRANSPOSER] ボタン上のインジケーターが続けて点滅します。
2. MANUAL I セクションの一番左の(PG というラベル表示がある)ストップを下に押します。
3. プログラムチェンジを保存したいコンビネーションを選択します(1 番のボタンが自動選択されます)。
コンビネーションを選択するたびに、MANUAL I セクション内のストップとその下にある数字ラベルから、保存されているプログラムチェンジがわかります。(第 5.2 章の 3 項参照)
一方、BASS セクションのストップでは、そのラベルに該当するセクションのチャンネルでプログラムチェンジが有効または無効になっているかがわかります。ストップをオンにすると、該当セクションのチャンネルでプログラムチェンジが送信されます。ストップをオフにすると、プログラムチェンジは送信されません。
4. MANUAL I セクションで数字ラベルのあるストップを使用して、保存したいプログラムチェンジ番号を指定します。
常に 3 桁の数字を入力してください。たとえば番号が「27」であれば、「0」「2」「7」と入力します。3 桁目を入力すると、MANUAL I セクションの一番左のストップがしばらく点滅して、データが保存されたことを表示します。
5. この手順を終了する前に、プログラムチェンジを 12 個のコンビネーションのいずれにも続けて割り当てることができます。入力が終わったら、[TRANSPOSER] ボタンを 2 回押して通常の演奏モードに戻ります。
6. [TRANSPOSER] ボタンを押して設定を終了し保存します。

6. 一般設定

6.1 ベロシティカーブの選択

本機にはタッチレスポンス機能が搭載されており、3種類のキーベロシティカーブと4種類の固定値から選ぶことができます。ベロシティはオーケストラボイスのサウンドと本機から送信される MIDI ノートに影響します。

メモ：

オルガンストップはキーベロシティの影響を受けません。

以下の手順にしたがって、ベロシティカーブを選択します。

1. [SET] ボタンを押しながら [REC] ボタンを押します。
パネル上のすべてのインジケーターが 2 回点滅します。
[TRANSPOSER] ボタンのインジケーターのいずれか 1 つが点灯し、現在の設定内容を表示します。
設定は左から順にソフト、ノーマル、ハード、32(固定)、64(固定)、96(固定)、127(固定)です。
2. [TRANSPOSER] ボタンを繰り返し押して、設定を選択します。
3. [REC] ボタンを押して設定を終了し保存します。

6.2 工場出荷時の設定とソングのリセット

本機の現在の状態を、ご購入の時点でプログラムされていた初期設定に戻すことができます。初期設定に戻す内容には、以下の選択肢があります。

- 本機の設定内容のみ(コンビネーション、スプリットポイント、アンサンブル、イントネーション、ボイス音量、トレモロ、オーケストラボイス、ローカルオフ、MIDI 設定、一般設定)
- 工場出荷時のソングのみ
- 本機の設定と工場出荷時のソング

以下の手順にしたがって、工場出荷時設定を呼び出します。

1. [SET] ボタンを押しながら [REC] ボタンを押します。
パネル上のすべてのインジケーターが 2 回点滅します。
2. [SET] ボタンを押しながら、下記該当の数字ボタンを押します。
 - **本機の設定のみをリセットする場合：**パネル上のインジケーターがすべて消灯するまでコンビネーションの[2] ボタンを長押しします。本機がスタンバイモードに入ります。
 - **工場出荷時のソングのみをリセットする場合：**コンビネーションのインジケーターが 1 回点滅するまでコンビネーションの[3] ボタンを長押しします。
 - **本機の設定と工場出荷時のソングをリセットする場合：**パネル上のインジケーターがすべて消灯するまでコンビネーションの[4] ボタンを長押しします。本機がスタンバイモードに入ります。
3. [REC] ボタンを押して通常の演奏モードに戻ります。

6.3 ソングファイルの管理

第4章でも述べたように、本機は内蔵メモリーに最大61個のソングを録音し保存できます。この内蔵メモリーからすべてのソングを、リアパネルの[]端子に挿入したUSBメモリーに保存し、必要に応じて本機に取り込むことができます。このようにすればメモリー量をほぼ際限なく使えることになります。

USBメモリーと本機の間でソングファイルをやりとりするには、まず[USB]インジケーターが点灯していることを確認し(点灯していない場合は[MEMORY]ボタンを押して点灯させ)、以下の手順にしたがいます。

1. [SET]ボタンを押しながら[REC]ボタンを押します。
パネル上のすべてのインジケーターが2回点滅します。
2. [SET]ボタンを押しながら、下記該当の数字ボタンを押します。
 - **すべてのソングを内蔵メモリーからUSBメモリーにコピーする場合:** [5]ボタンを数秒押します。ボタンのインジケーターが点滅しソングがUSBメモリーにコピーされます。コピーが完了すると点滅が止まります。本機内蔵メモリーの61個のソングに対応して01～61までの番号が付いた61個の.midファイルが、USBメモリー上の「organ\songs」フォルダ内に作成されます。
 - **すべてのソングをUSBメモリーから内蔵メモリーにコピーする場合:** [6]ボタンを数秒押します。ボタンのインジケーターが点滅しソングがUSBメモリーから内蔵メモリーにコピーされます。コピーが完了すると点滅が止まります。
3. [REC]ボタンを押して通常の演奏モードに戻ります。

メモ:

- 内蔵メモリーからUSBメモリーにコピーすると、「organ\songs」フォルダにすでに入っていた.midファイルは上書きされてしまいますのでご注意ください。ただし、別名のフォルダを作成したり、ソングの.midファイル名を変更したりすることはできます。しかし、本機へ.midファイルを取り込む場合は、ファイル名が必ず01.mid～61.midの番号であること、またファイルが「organ\songs」フォルダにあることが必要です。
- USBメモリーから内蔵メモリーにコピーすると、内蔵メモリー内にすでにあったソングは上書きされてしまいますのでご注意ください。

6.4 コンビネーションファイルの管理

第2.1章でも述べたように、本機には12個のジェネラルコンビネーションがあります。各ファイルに12個のコンビネーションを含んだ最大12個のファイルすべてを転送し、必要に応じて内蔵メモリーの指定バンクに取り込んだり、リアパネルの[]端子に挿入したUSBメモリーに保存したりすることができます。これによってメモリーをほぼ際限なく使うことができます。

以下の手順にしたがって、コンビネーションファイルを転送します。

1. [MEMORY]ボタンを押して、コンビネーションファイルの保存先または取り込み先のメモリー(内蔵またはUSBメモリー)を選択します。
メモリーの選択については第2.1章の⑩項をご参照ください。

メモ:

USBメモリーに保存する場合は、先にUSBメモリーを本体に差し込んでおく必要があります。

2A.現在のコンビネーションすべてを指定のメモリーに保存する場合: [REC]ボタンを押しながらコンビネーションボタンの1つを押します。

そのボタンのインジケーターが点滅し始め、保存が終了すると止まります。押したコンビネーションの番号の付いたパッケージが作成されます。USBメモリー内ではこのパッケージは「organ\memories」フォルダ内に.memファイルとして作成されます。コンビネーションのBバンクを選択すると、このパッケージには7～12の番号が付きます。

2B.すべてのコンビネーションが入ったパッケージを取り込む場合: [START/STOP]ボタンを押しながら、取り込みたいパッケージと同じ番号のコンビネーションボタンを押します。

そのボタンのインジケーターが点滅し始め、取り込みが終了すると止まります。USB メモリー内ではこのパッケージは「organ\memories」フォルダ内に .mem ファイルとして作成されます。

メモ：

- ・ 内蔵メモリーまたは USB メモリーに保存すると、保存先にすでにあった同名のファイルは上書きされてしまいますのでご注意ください。ただし、USB メモリー内に別名のカスタムフォルダを作成したり、.mem ファイル名を変更したりすることはできます。しかし、本機へ .mem ファイルを取り込む場合は、.mem ファイル名が必ず 1 ～ 12 の番号であること、またファイルが「organ\songs」フォルダにある必要があります。
- ・ 内蔵メモリーまたは USB メモリーから取り込むと、そのコンビネーションは上書きされてしまいますのでご注意ください。

6.5 コンビネーション内のオーケストラボイスとオルガンスタイル

通常、コンビネーションにはストップ(オーケストラも含む)のオン/オフ状態、トレモロ設定、スプリット、オクターブ切り替えボタン設定が保存されています。また、本機ではストップごとのオーケストラボイスのタイプ(たとえば同じボタンでも、あるコンビネーションではピアノ音色を、また別のコンビネーションではトランペット音色を演奏すること)と、呼び出されるオルガンスタイルをメモリーできます。

以下の手順にしたがって、このメモリー機能を有効にします。

1. [SET] ボタンを押しながら [REC] ボタンを押します。パネル上のすべてのインジケーターが 2 回点滅します。

2A.オーケストラボイスのメモリー機能をオン/オフする場合：[MEMORY] ボタンを押します。

以下のインジケーターの状態ですの機能のオン/オフが表示されます。

- ・ **[INT]インジケーターのみ点灯：**メモリー機能はオフです(ストップの状態のみが保存されます)。
- ・ **[INT]インジケーターと[USB]インジケーターが点灯：**オーケストラボイスをメモリーする機能がオンの状態です。

2B.スタイルのメモリー機能をオン/オフする場合：[STYLE] ボタンを押します。

以下のインジケーターの状態ですの機能のオン/オフが表示されます。

- ・ **[BAR]インジケーターのみ点灯：**メモリー機能はオフです。
- ・ **[BAR]インジケーターと[USB]インジケーターが点灯：**メモリー機能がオンです。

3. [REC] ボタンを押して通常の演奏モードに戻ります。

6.6 エクスプレッションペダルの較正

[EXPR.]端子に接続したエクスプレッションペダルの作動範囲が不完全な場合、ペダルの較正ができるので便利です。

以下の手順にしたがって、ペダルを較正します。

1. [SET] ボタンを押しながら [REC] ボタンを押します。パネル上のすべてのインジケーターが 2 回点滅します。
2. ペダルを最小値の位置(ペダルを完全に上げた状態)に設定します。
3. MAN. I ORCHESTRA セクションの[VOICE 1] ボタンを長押しして、そのボタンのインジケーターを消灯させます。
4. ペダルを最大値の位置(ペダルを完全に下げた状態)に設定します。
5. MAN. I ORCHESTRA セクションの[VOICE 2] ボタンを長押しして、そのボタンのインジケーターを消灯させます。
6. [REC] ボタンを押して通常の演奏モードに戻ります。

6.7 スタンバイモードのオン／オフ

第2章で述べたように、本機は無操作の状態が30分間続くと、自動的にスタンバイモードに切り替わります。

以下の手順にしたがって、自動スタンバイモードを無効にすることができます。

1. [SET] ボタンを押しながら [REC] ボタンを押します。
パネル上のすべてのインジケーターが2回点滅します。
2. [BANK] ボタンでスタンバイモードをオン／オフします。
以下のインジケーターの状態でもードのオン／オフが表示されます。
 - ・ [A] インジケーターのみ点灯: スタンバイモードはオンです。
 - ・ [A] インジケーターと [B] インジケーターが点灯: スタンバイモードはオフです。
3. [REC] ボタンを押して通常の演奏モードに戻ります。

6.8 オペレーティングシステムのバージョン表示

以下の手順にしたがって、本機の現在のオペレーティングシステムのバージョンを表示させます。

1. [SET] ボタンを押しながら [REC] ボタンを押します。
パネル上のすべてのインジケーターが2回点滅します。
2. [1] ボタンを押したままにします。
ストップのインジケーターの点灯でバージョン番号(X.Y)が次のように表示されます。
 - ・ BASS セクションおよび MANUAL I セクションの合計10個のストップで数字のXを表示します(一番左のストップから右へ昇順で「1」から始まり、一番右のストップが「0」になります)。たとえば2つ目のストップのインジケーターが点灯している場合は、数字のXは「2」ということです。
 - ・ MANUAL II セクションのストップが数字のY(上記の数字Xと同様で、左から右へ昇順で「1」から始まり、一番右のストップが「0」になります)を表示します。
3. [1] ボタンを離し、[REC] ボタンを押して通常の演奏モードに戻ります。

7. 付録

7.1 デモソングの再生

本機には 6 曲のデモソングが内蔵されており、音色をデモ演奏で試聴できます。

以下の手順にしたがって、デモソングを再生します。

1. [BANK] ボタンを数秒押したままにします。
パネル上のすべてのインジケーターが 2 回点滅し、このボタンのインジケーターが続けて点滅します。
2. 各コンビネーションボタンに下記のデモソングが内蔵されています。該当のボタンを押すと再生できます。再生中に他のソングを選択したり、好みのストップをオン／オフしたり、オルガンスタイルや好みのテンペラメントを選択することもできます。
3. 再生を止めるには、再生中のソングに該当するボタンを押すか[BANK] ボタンを押して、通常の演奏モードに戻ります。

7.2 デモソングのリスト

曲番	作曲者	題名	参照元	時間	スタイル
1	A. ヘッセ	Allegretto in F major	Leichte Präludien für Orgel n°17	1:08	バロック
2	C. H. リンク	Lobe den Herren	Album n°94	0:51	北ドイツバロック
3	C. H. リンク	Fughetta in C major op.116	Präludien Album n°24 H. Bungart	1:18	ロマンティック
4	A. ヘッセ	Postlude in G major	Leichte Präludien für Orgel n°23	1:04	シンフォニック
5	L. ボエルマン	Sortie in Bb	"Heures Mystiques" 1er Volume op.29	2:06	シンフォニック
6	S. グアイアナ	Improvvisazioni	"Orchestra time"	5:16	バロック

7.3 MIDI とは

MIDI インターフェース (Musical Instrument Digital Interface) は、特殊なプロトコルを使用して、異なるスタイルや種類の楽器間のコミュニケーションを可能にします。これにより、MIDI 楽器のシステムが利用可能になり、単一の楽器に比べてより多様性とコントロール性が向上します。この通信を可能にするため、すべての MIDI 楽器には以下のような 2 つまたは 3 つの 5 ピン DIN コネクタが装備されています。

- **MIDI IN**: 他のユニットから送信された MIDI データを受信するコネクタ。
- **MIDI OUT**: 楽器が生成した MIDI データを他のユニットに送信するコネクタ。
- **MIDI THRU**: このコネクタはユニットを直列に接続する際に使用します。これにより、MIDI IN 受信ポートによって受信された MIDI データがそのまま送信されます。楽器によっては、このコネクタが装備されない場合があります。

MIDI インターフェースを装備している楽器の多くは、MIDI メッセージを送信します。このメッセージでは、MIDI OUT コネクタを使用してどの音符がどのような音で演奏されたのかなどを指定します。このコネクタを他の MIDI 楽器の MIDI IN に接続すると、受信した楽器が送信側の楽器で演奏された音を再現するように反応します。

MIDI シーケンサーへの記録の際も、同様の方法で情報が送信されます。コンピューターまたはシーケンサーを使用して、送信側の楽器によって生成された MIDI データを記録することができます。これらの記録されたデータが楽器に返送された場合、記録されたパフォーマンスを自動的に繰り返します。

この MIDI チャンネルのおかげで、1 本のケーブルと 1 つのコネクタだけで多数のデジタルデータを送信することができます。MIDI チャンネルは 16 チャンネルあります。同じ周波数(またはチャンネル)に合わせないと 2 つの通信局が通信できない無線通信と同様の方法です。接続された 2 つの MIDI 楽器のみが通信でき、送信側の楽器のチャンネルが受信側の楽器のチャンネルと同じである必要があります。

MIDI メッセージは、チャンネルメッセージとシステムメッセージに分けられます。これらのメッセージについて簡単に説明します。

チャンネルメッセージ

NOTE ON (ノートオン)

鍵盤が押されると、このメッセージが送信されます。Note On(ノートオン)メッセージには次の情報が含まれています。

Note On(ノートオン): 鍵が押されたことを示します。

Note Number(ノート番号): 押された鍵により演奏される音の高さを示します。

Velocity(ベロシティ): 音の強弱(鍵を押す時の強さを示します)。

Note(音名)は、0 から 127 のノート番号で表現されます。中間の C が 60 番です。

NOTE OFF (ノートオフ)

先に押された鍵が解放されると、このメッセージが送信されます。

メッセージが受信されると、鍵に関連する音のスイッチが切れます。Note Off(ノートオフ)メッセージには次の情報が含まれています。

Note Off(ノートオフ): 鍵が解放されたことを示します。

Note Number(ノート番号): 解放された鍵の番号を示します。

Velocity(ベロシティ): 音の強弱(音が解放される速さ)を示します。

注意:

Velocity(ベロシティ)=0 の Note On(ノートオン)メッセージは、Note Off(ノートオフ)メッセージと同じとなります。

PROGRAM CHANGE (プログラムチェンジ)

このメッセージは、受信側の楽器のプログラムまたは音を選択するときに使用します。

General MIDI(一般 MIDI)と呼ばれる一定の標準規格があり、受信された各 Program Change(プログラムチェンジ)に対してどの音が呼び戻されるかを決めます。通常、この MIDI 仕様は適用する楽器の取扱説明書の MIDI インプリメンテーションチャートに示されています。

このメッセージには次の情報が含まれています。

Program Change(プログラムチェンジ): ボイスまたはプログラムの変更。

Program Change Number(プログラムチェンジ番号): 有効にするプログラムやボイスの番号を示します。

CONTROL CHANGE (コントロールチェンジ)

これらは、演奏に表現を加えるために使用されるコントロールメッセージです(多くの場合、つまみやペダルに関連します)。ボリューム(CC n.7)やスウェルペダルの位置(CC n.11)などのボイスパラメーターを設定(必要な場合はリアルタイムでコントロール)することができます。

このメッセージには次の情報が含まれています。

Control Change(コントロール変更): コントローラーが調整されたことを示します。

Controller Number(コントローラー番号): どのコントローラーが調整されたかを示します。

Controller Position(コントローラー位置): コントローラーの位置。

システムメッセージ

SYSTEM EXCLUSIVE (システムエクスクルーシブ)

これらのメッセージは、送信器と同じ生産者によって製造された楽器(場合によっては同じモデル)によってのみ読み取ることができます。メッセージは主に楽器の音の生成およびプログラミングのパラメーターに関連しています。オルガンはこれらのメッセージを使用して、すべての内部パラメーターをコントロールしてボイスのオン/オフを切り替えます。

リアルタイム

これらのメッセージは、接続されている楽器の特定のモジュールや機能のコントロールをリアルタイムで行うために使用されます。これらのメッセージには、Start(開始)、Stop(停止)、Pause(一時停止)/Continue(続行)、Clock(時計)コマンドが含まれます。

START(開始): シーケンサーが MIDI シーケンスの録音または再生を開始したことを示します。

STOP(停止): シーケンサーが停止したことを示します。

PAUSE(一時停止)/**CONTINUE**(続行): シーケンサーが停止状態に設定されていることを示します。

CLOCK(時計): シーケンサーの速度を示します。

注意:

上記のメッセージはオルガンから送信されず、また受信できません。ここでは参考情報として説明しています。

Real Time(リアルタイム)メッセージには、2つのMIDI楽器間のダイアログを保つために送信されるActive Sensing(アクティブセンシング)コードが含まれます。受信側の楽器がMIDIデータまたはActive Sensing(アクティブセンシング)コードを約300ミリ秒間受信しない場合、MIDIの接続が切れていると判断されます。そのため、まだ有効な音のスイッチもオフになります。このメッセージの送受信はオプションですので、すべての楽器が対応しているわけではありません。

8. 製品仕様

基本情報	
手鍵盤（61 鍵、トラッカータッチ）	1 段
ストップの形状	タブレット
音源（オルガンボイス）	サンプリング
オーディオ・アンプ	2×25W
スピーカー	2
エクспレッション・ペダル	△（別売木製スタンドに付属）
サステインペダル	△（別売木製スタンドに付属）
消費電力（W）	65
ストップ数と音色	
Man.II	11
Man.I	7
Bass	3
合計オルガンボイス（ストップ数）	21
オーケストラボイス（ストップ数）	5
オーケストラボイス（交換ボイス）	○
スタイル（時代様式）：プリセット	①バロック、②北ドイツバロック、③ロマンティック、④シンフォニック
トレミュラント	○
設定	
ジェネラル・メモリーボタン	6
メモリーバンク	2
トランスポザー	-3 ～ +3（半音単位）
リバーブ	1 種類
古典調律	7 種類
録音再生機能	○
接続	
出力端子	ヘッドホン × 1（ステレオ標準） ライン・アウト（ステレオ × 1）
MIDI	IN、OUT
USB to Device	○
USB to Host	○
その他	
サイズ（cm）	幅 97.5× 高さ 13× 奥行 36
重量（kg）	14
外装	オーク調仕上げ

MIDI インプリメンテーション

MIDI インプリメンテーションの詳細

チャンネルメッセージ

デフォルト設定を使用すると、次の MIDI チャンネルでチャンネルメッセージが送受信されます。

- Ch.1: Man.II のノートまたはコントロール
- Ch.2: Man.I のノートまたはコントロール
- Ch.4: Pedal のノートまたはコントロール

Note On (ノートオン)

鍵が押されたときに送信されるメッセージです。

Data format: 9nH kkH vvH

n=channel number : 0H-EH (1-15)
kk=note number : 1EH-65H (30-101)
vv=note on velocity : 01H-7FH (1-127)
: 00H (0) Note Off

Note Off (ノートオフ)

鍵が解放されたときに送信されるメッセージです。

Data format: 8nH kkH vvH
9nH kkH 00H

n=channel number : 0H-EH (1-15)
kk=note number : 1EH-65H (30-101)
vv=note off velocity : 00H-7FH (0-127)
ignored

- このメッセージは、Velocity (ベロシティ) = 0 の Note On (ノートオン) メッセージとして受信されることがあります。

Control Change (コントロールチェンジ)

ボリューム、エクスプレッションやその他のシステムのコントロールを行うメッセージです。

• Expression (エクスプレッション) (CC 11)

セクションのエクスプレッションをコントロールするメッセージです。

Data format: BnH 0BH vvH

n=channel number : 0H-EH (1-15)
vv=expression value : 00H-7FH (0-127)

• Sustain (サステイン) (CC 64)

Sustain(サステイン)/Damper(ダンパー)効果をコントロールするメッセージです。

Data format: BnH 40H vvH

n=channel number : 0H-EH (1-15)
vv=switch : 00H (0) off
(received as 00H-39H)
: 7FH (127) on
(received as 40H-7FH)

- このメッセージは、MANUAL I および MANUAL II のチャンネルのみで送受信されます。

• All sounds off (すべての音声をオフにする) (CC 120)

特定のチャンネルの現在のボイスをすべて停止します。

Data format: BnH 78H 00H

n=channel number : 0H-EH (1-15)

• Reset All Controllers (すべてのコントローラをリセットする) (CC 121)

コントローラはデフォルト値にリセットされます。

Data format: BnH 79H 00H

n=channel number : 0H-EH (1-15)

• All notes off (すべてのノートをオフにする) (CC 123)

特定のチャンネルの現在のノートをすべて停止します。

Data format: BnH 7BH 00H

n=channel number : 0H-EH (1-15)

Program Change (プログラムチェンジ)

外部モジュールのサウンド、音色、プログラムなどを選択するメッセージです。シーケンサーで録音できます。

Data format: CnH mmH

n=channel number : 00-EH (1-15)
mm=Program Ch. number: 00H-7FH (0-127)

スタンダードシステムのエクスクルーシブメッセージ

• Device Inquiry (デバイスの確認)

楽器がオンになったとき、および Device Inquiry Request を受信したときに送信される楽器情報です。

Data format: F0H 7EH 7FH 06H 02H 31H 00H 1CH 20H 00H xxH yyH zzH vvH F7H

F0H: Exclusive status
 7EH: Universal Non Realtime message
 7FH: channel
 06H: general information
 02H: device ID reply
 31H: Viscount ID
 00H 1CH: device family code
 20H 00H: device family member code
 xxH yyH zzH vvH: software version
 F7H: End of Exclusive

• Master Fine Tuning

Data format: F0H 7FH 7FH 04H 03H vvH nnH F7H

F0H: Exclusive status
 7FH: Universal Realtime message
 7FH: channel (any)
 04H: Sub-ID #1=Device Control message
 03H: Sub-ID #2=Master Fine tuning
 vvH nnH: fine tuning value
 00H 00H: A4=415,3 Hz
 00H 40H: A4=440 Hz
 7FH 7FH: A4=466,2 Hz
 F7H: End of Exclusive

VISCOUNT システムのエクスクルーシブメッセージ

• Register on/off (登録オン / オフ)

Data format: F0H 31H snH xxH yyH F7H

F0H: Exclusive status
 31H: Viscount ID
 sH : switch
 0H=voice off
 4H=voice on
 nH : channel number (0H - EH)
 xxH: voice id - first byte
 yyH: voice id - second byte
 F7H: End of Exclusive

• Tremulant Speed (トレモロの速さ)

Data format: F0H 31H 2nH 5AH vvH F7H

F0H: Exclusive status
 31H: Viscount ID
 2nH: channel number (s=0H-EH)
 5AH: tremulant speed
 vvH: speed value (04H-20H)
 F7H: End of Exclusive

- Tremulant(トレモロ)のスイッチがオンのときこのメッセージが送信されます。

• Tremulant Depth (トレモロの深さ)

Data format: F0H 31H 2nH 5CH vvH F7H

F0H: Exclusive status
 31H: Viscount ID
 2nH: channel number (s=0H-EH)
 5CH: tremulant depth
 vvH: depth value (04H-20H)
 F7H: End of Exclusive

- Tremulant (トレモロ) のスイッチがオンのとき、このメッセージが送信されます。
- スwitchがオフのとき、トレモロの深さの数値は 00H として送信されます。

• Temperament (調律法)

Data format: F0H 31H 2FH 31H vvH F7H

F0H: Exclusive status
 31H: Viscount ID
 2FH: system control
 31H: temperament
 vvH: temperament type
 00H=Equal
 10H=Kirnberger II
 11H=Werckmeister III
 12H=Pythagorean
 13H=Meantone
 16H=Kellner - Bach
 1AH=Silbermann
 F7H: End of Exclusive

• Style (スタイル)

Data format: F0H 31H 2FH 47H vvH F7H

F0H: Exclusive status
 31H: Viscount ID
 2FH: system control
 31H: style
 vvH: style type
 00H=Baroque
 01H=Barock
 02H=Romantic
 03H=Symphonic
 F7H: End of Exclusive

• Cancel (キャンセル)

Data format: F0H 31H 2FH 6CH 00H F7H

F0H: Exclusive status
 31H: Viscount ID
 2FH: system control
 6CH: cancel
 00H: execute cancel
 F7H: End of Exclusive

システムのリアルタイムメッセージ

FEH: Active Sensing

他の MIDI データが送信されていないときは、FEH が 300 ミリ秒間隔で送信されます。

MIDI インプリメンテーションチャート

Viscount Cantorum VI Plus
Portable 61-keys organ

Version: 1.0
Date: 06 Mar. 2018

FUNCTION...		TRANSMITTED	RECEIVED	REMARKS
BASIC	Default	1, 2, 4	1, 2, 4	
CHANNEL	Changed	1÷16	1÷16	
MODE	Default	Mode 3	Mode 3	
	Messages	*****	*****	
	Altered	*****	*****	
NOTE		33÷99	33÷99	
NUMBER	True Voice	36÷96	33÷99	
VELOCITY	Note ON	O	O	
	Note OFF	O	O	
AFTER	Key's	X	X	
TOUCH	Ch's	X	X	
PITCH BENDER		X	X	
CONTROL	11	O	O	Expression
CHANGE	64	O	O	Sustain
	120	O	O	All sound off
	121	O	O	Reset All Controllers
	123	O	O	All Notes Off
PROGRAM		O	X	
CHANGE	True#			
SYSTEM EXCLUSIVE		O	O	
SYSTEM	Song Pos	X	X	
COMMON	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
SYSTEM	Clock	X	X	
REAL TIME	Commands	X	X	
AUX	Local On-Off	X	X	
MESSAGES	All notes off	O	O	
	Reset	X	X	
NOTES:				

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

O=YES
X=NO

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には、保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印、お買い上げ日」などの記入をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化の程度が異なるため消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。

有寿命部品の交換は、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ヒューズなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

●修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

 **0120-149-808**

携帯電話、IP 電話から

050-3852-4106

受付時間 月曜日～金曜日

10:00～12:00、13:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定
休日を除く)

FAX

東日本

(北海道 / 東北 / 関東 / 甲信越 / 東海)
03-5762-2125

西日本

(沖縄 / 九州 / 中国 / 四国 / 近畿 / 北陸)
06-6649-9340

◆製品に関するお問い合わせ

株式会社ヤマハミュージックジャパン

鍵盤事業戦略部 EKB 事業企画課

TEL : 050-3147-2106

受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、弊社指定休日を除く)

ウェブサイトからの
お問い合わせはこちら





CLASSIC ORGAN

総輸入発売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン

鍵盤事業戦略部 EKB事業企画課

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい5丁目1-2

横浜シンフォステージウエストタワー

TEL : 050-3147-2106

